

法令及び定款に基づくインターネット開示事項

第13期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

- ① 連結計算書類の「連結注記表」
- ② 計算書類の「個別注記表」

株式会社リニカル

連結計算書類の「連結注記表」及び計算書類の「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <http://www.linical.co.jp/>）に掲載することにより、株主の皆様にご提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の状況

・連結子会社の数	13社
・主要な連結子会社の名称	LINICAL USA, INC. LINICAL TAIWAN CO., LTD. LINICAL KOREA CO., LTD. LINICAL Europe Holding GmbH LINICAL Europe GmbH LINICAL Spain, S.L. LINICAL France SARL

(2) 連結の範囲及び持分法の適用の範囲の変更に関する注記

当連結会計年度から、新規に設立いたしましたLINICAL Czech Republic s.r.o.を連結の範囲に含めております。

(3) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

・時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びこれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

ロ. たな卸資産の評価基準及び評価方法

・仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産

（リース資産を除く）

当社は定率法（ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法）を、連結子会社は主に定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物附属設備	3～15年
工具、器具及び備品	3～10年

- ロ．無形固定資産
（リース資産を除く） 定額法を採用しております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（３～５年）に基づく定額法を採用しております。
- ハ．リース資産
・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- ③ 重要な引当金の計上基準
- イ．貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ．賞与引当金 従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
- ④ のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、その効果の発現する期間（５年～１８年）にわたり、定額法により償却を行っております。
- ⑤ 退職給付に係る会計処理の方法
- イ．退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ロ．数理計算上の差異の費用処理額 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。
- ハ．小規模企業等における簡便法の採用
連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- ⑥ 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。
- ⑦ その他連結計算書類作成のための重要な事項
- 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

3. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 135,212千円

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株 式 の 種 類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普 通 株 式	24,740,000株	一株	一株	24,740,000株

(2) 自己株式の数に関する事項

株 式 の 種 類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普 通 株 式	1,980,188株	34,355株	一株	2,014,543株

(注) 自己株式の数の増加は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得34,300株による増加及び単元未満株式の買取55株による増加であります。

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

平成29年5月26日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 227,598千円
- ・1株当たり配当額 10円00銭
- ・基準日 平成29年3月31日
- ・効力発生日 平成29年6月16日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

平成30年5月31日開催の取締役会において次のとおり決議する予定であります。

- ・配当金の総額 249,980千円
- ・配当の原資 利益剰余金
- ・1株当たり配当額 11円00銭
- ・基準日 平成30年3月31日
- ・効力発生日 平成30年6月12日

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用調達計画に照らして、必要な資金を主に銀行借入により調達しております。また、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

差入保証金は、主に事務所の賃借に係る敷金であります。

預り金は、主に支払業務の受託に係る顧客からの預り金であります。

長期借入金は、主に投資及び営業取引に係る資金調達であります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは、与信管理規程に基づき、営業債権に係る信用リスクの低減を図っております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません（(注)2参照）。

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
現 金 及 び 預 金	5,173,058千円	5,173,058千円	－千円
売 掛 金	1,343,895	1,343,895	－
差 入 保 証 金	419,404	350,300	△69,103
資産計	6,936,358	6,867,255	△69,103
預 り 金	1,086,893	1,086,893	－
長 期 借 入 金 （ ※ ）	933,440	933,440	－
負債計	2,020,333	2,020,333	－

(※) 長期借入金には、1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

1. 現金及び預金並びに売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 差入保証金

この時価については、回収見込額を安全性の高い債券の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

3. 預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

4. 長期借入金

変動金利による長期借入金については、金利が一定期間ごとに更改される条件となっており、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、長期借入金には1年内返済予定の長期借入金残高を含めております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

投資事業組合等への出資208,906千円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1 年 内	1 年 超 5 年 内	5 年 超 10 年 内	1 0 年 超
現 金 及 び 預 金	5,173,058千円	－千円	－千円	－千円
売 掛 金	1,343,895	－	－	－
合 計	6,516,954	－	－	－

差入保証金については償還予定が明確に確定できないため、上表に含めておりません。

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

	1 年 内	1 年 超 2 年 内	2 年 超 3 年 内	3 年 超 4 年 内	4 年 超 5 年 内
長 期 借 入 金	139,968千円	139,968千円	139,968千円	139,968千円	139,968千円

6. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり当期純利益

57円02銭

(2) 1株当たり純資産額

229円02銭

7. 重要な後発事象に関する注記

(多額な資金の借入)

当社の完全子会社であるLINICAL USA, INC.（本社：ニューヨーク州、以下「米国リニカル社」）は米国メリーランド州会社法の規定に従い、現金を対価とする「逆三角合併」方式により、Accelovance, Inc.（本社：メリーランド州）の株式を取得いたしました。当社は当該株式の取得等の資金について米国リニカル社に出資及び貸付けを行うことを目的に金融機関から資金の借入を行っております。

(1) 借入先

㈱三井住友銀行、㈱みずほ銀行、㈱三菱UFJ銀行

(2) 借入金額

40億円

(3) 借入実行日

平成30年4月12日

(4) 返済期限

金融機関との当座貸越契約に基づき、平成30年4月12日に資金の借入を行っております。また、今後、借入期間を10年とする長期の金銭消費貸借契約に移行する予定です。

(取得による企業結合)

当社は、平成30年3月27日開催の取締役会において、当社の完全子会社であるLINICAL USA, INC.（本社：ニューヨーク州、以下「米国リニカル社」）及びその子会社であるMagnolia Acquisition Corp.（本社：メリーランド州、以下「特別目的会社」）が、米国を本拠として主に医薬品開発業務受託事業を展開するAccelovance, Inc.（本社：メリーランド州、以下、「Accelovance社」）との間で合併契約を締結し、特別目的会社とAccelovance社との合併を行うことで、Accelovance社を米国リニカル社の完全子会社とすることを決議し、同日、合併契約を締結しております。

上記の合併契約に基づき、平成30年4月16日（米国東部標準時）に米国リニカル社はAccelovance社の発行済株式の100%を取得し、当社及び米国リニカル社の完全子会社となっております。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

名称 Accelovance, Inc.

事業内容 医薬品開発業務受託事業

(2) 企業結合を行った主な理由

世界最大の医薬品市場及びCRO市場である北米市場でのプレゼンスを高め、製薬会社の北米を含むグローバル開発ニーズに対する当社グループの対応能力を飛躍的に向上させることで海外事業の更なる拡大を図るため。

(3) 企業結合日

平成30年4月16日(米国東部標準時)

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする「逆三角合併」方式による株式取得

(5) 結合後企業の名称

Linical Accelovance America, Inc.

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った根拠

当子会社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価(注)	現金	3,527,641千円
取得原価		3,527,641千円

(注) 取得の対価には、条件付取得対価を含めておりません。条件付取得対価は、被取得会社の一定期間の将来業績に応じて支払いを行う契約となっており、現時点では確定しておりません。

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 119,267千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合契約に規定される条件付取得対価の内容及び当連結会計年度以降の会計処理方針

(1) 条件付取得対価の内容

企業結合後の特定のマイルストーン達成に応じて、条件付取得対価を追加で支払うこととなっております。なお、条件付取得対価の内容については、Accelovance社(新商号: Linical Accelovance America, Inc.)の平成30年1月1日から平成30年12月31日の期間の業績指標となる利益が一定額を超えた場合に、その超過した部分の50%(上限あり)を株式取得の対価として追加で支払うものです。

(2) 当連結会計年度以降の会計処理方針

上記条件付取得対価の変動部分につきましては、米国会計基準に基づき認識します。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

② その他有価証券

・時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びこれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

③ たな卸資産の評価基準及び評価方法

・仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備 3～15年

工具、器具及び備品 3～10年

② 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

- ③ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度の末日における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。
- ④ 投資損失引当金 子会社への投資に対する損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。
- (4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項
- ① 重要な外貨建の資産または負債の本邦への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- ② 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

3. 貸借対照表に関する注記

- | | |
|---------------------|-----------|
| (1) 有形固定資産の減価償却累計額 | 54,598千円 |
| (2) 関係会社に対する金銭債権、債務 | |
| 短期金銭債権 | 235,500千円 |
| 短期金銭債務 | 130,870千円 |

4. 損益計算書に関する注記

- | | |
|--------------|-----------|
| 関係会社との取引高 | |
| 営業取引による取引高 | |
| 売上 | 27,530千円 |
| 売上原価 | 448,822千円 |
| 営業取引以外による取引高 | |
| 受取利息 | 2,513千円 |

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株 式 の 種 類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普 通 株 式	1, 980, 188株	34, 355株	一株	2, 014, 543株

(注) 自己株式の数の増加は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得34, 300株による増加及び単元未満株式の買取55株による増加であります。

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産（流動）	(千円)
賞与引当金	47, 200
未払事業税	15, 780
その他	5, 035
繰延税金資産（流動） 合計	68, 015
繰延税金資産（固定）	
投資損失引当金	78, 535
退職給付引当金	108, 239
その他	1, 944
繰延税金資産（固定） 合計	188, 720

7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社

種 類	会社等の 名 称	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者 と の 関 係	取 引 内 容	取引金額 (千円)	科 目	期末残高 (千円)
子会社	LINICAL KOREA C O . , L T D .	所有 直接100%	業務の委託 役員の兼任	資金の貸付(注) 利息の受取(注)	90, 000 1, 800	短期貸付金 その他流動資産	90, 000 1, 140

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を決定しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	235円50銭
(2) 1株当たり当期純利益	49円84銭

9. 重要な後発事象に関する注記

(多額な資金の借入)

当社の完全子会社であるLINICAL USA, INC.（本社：ニューヨーク州、以下「米国リニカル社」）は米国メリーランド州会社法の規定に従い、現金を対価とする「逆三角合併」方式により、Accelovance, Inc.（本社：メリーランド州）の株式を取得致しました。当社は当該株式の取得等の資金について米国リニカル社に出資及び貸付けを行うことを目的に金融機関から資金の借入を行っております。

(1)借入先

㈱三井住友銀行、㈱みずほ銀行、㈱三菱UFJ銀行

(2)借入金額

40億円

(3)借入実行日

平成30年4月12日

(4)返済期限

金融機関との当座貸越契約に基づき、平成30年4月12日に資金の借入を行っております。また、今後、借入期間を10年とする長期の金銭消費貸借契約に移行する予定です。